



エコキャップ運動

ペットボトルのキャップをリサイクルして循環型社会をつくり、地域の活性化を図ろう！

「エコキャップ運動」ってなに？

日頃より、エコキャップ運動にご理解頂きありがとうございます。

神奈川県の一女子高校生の、ペットボトルはリサイクルされるのに「なぜキャップはゴミになってしまうの？」という疑問から生まれたのがエコキャップ運動です。

今から約10年前のことです。

高校生を対象として「環境活動のイベント」を開催しました。

そのイベントで、ペットボトルのリサイクルを推進するために女子高生がペットボトル本体とラベル、キャップの3種類に分けて、市の清掃局に持ち込むと市の職員から「ペットボトルは集めているからここに置いて、後（ラベル・キャップ）は燃えるゴミの場所に置いておいて・・・」と言われたと聞きました。

ゴミを分別してリサイクルをすると言っているのに、キャップはゴミにするという「世の中の矛盾」を指摘され、では、私たちと一緒にキャップはリサイクルできるのか試してみようということになりました。

色々なリサイクル業者に相談するものの「ペットボトルはいいけど、キャップやラベルはいらない」という業者ばかりで、その中で1社だけ「梱包用のPPバンドはリサイクルできるからテストしてみようか」と言ってくれた会社がありました。

その会社で、ゴミとして扱われていたキャップが、同じ素材を大量に集めることによって立派な素材に変わり、徐々に国内のリサイクル活動に繋がって行きました。

日本は、石油を輸入している訳ですし、石油価格の高騰や地域紛争や政治情勢、為替の変動などを考えると、国内でのプラスチックの再生は社会構造を変える取り組みになるのではないかと思います。



キャップの再生材を使用して、マクドナルドのトレイにする話がありました。キャップの再生材でテスト品を制作して、お店で試験的に使うところまで進みました。しかし、マクドナルドが使用する大量のトレイを製作するほどのキャップが集まらず、残念ではありましたが製品にはなりませんでした。しかし、安全基準が高いマクドナルドで安全性の合格を頂き、店舗でのテスト運用まで漕ぎ着けたことは大きな励みになりました。

これをきっかけに、国内の家電メーカーや自動車メーカーがキャップの再生マテリアル活用を検討し、色々なメーカーがキャップを使った製品化に挑戦してくれるようになりました。

協会が発足して数年の年月を要しましたが、女子高校生の感じたりサイクルの矛盾が、解決に向けて具現化していく段階となりました。



子どもたちが集めたキャップを、子どもたちが日常生活で使用する商品にするのが、リサイクルの仕組みとして「わかりやすい」ということになり、文具や日用品にしてみました。

この写真は、サクラクレパスのご協力で作成したボールペンです。

ノベルティーや事務用品として販売され、

キャップを原材料とした商品の企画が進んでいます。

これらのボールペンは事務用品として使用される以外に、エコキャップ運動に参加している企業・団体等が、右下の写真のようにノベルティーとして積極活用しています。これにより企業内のエコ循環が実現しているのです。

これからも、皆さんが集めてくれたキャップがまた、皆さんの生活に戻ってくるよう商品開発を進めていきます。



エコキャップ運動でいいこと！ 循環型社会

・全国で集められたキャップは、エコステーションなどに運ばれ、集められたキャップの中に入っているゴミなどを取り除いたり、キャンペーンのシールを剥がしたり、キャップの色を分別したりしています。

・分別されたキャップを今度は細かく砕き、チップ、ペレット状にして再生プラスチック原料にします。そのプラスチック原料は、うちわやボールペンなどに生まれ変わります。そして、また皆さんの生活の中に戻って行きます。

・キャップをゴミとして燃やさないので、温暖化の原因となるCO2の発生を抑えられます。



エコキャップ運動でいいこと！ エコステーション・・・障がい者支援

エコステーションは障がい者施設等と連携した、地域のエコキャップ受け入れ拠点であり、高品質なリサイクルを実現するために異物除去などの作業を障がいをお持ちの方々にお仕事として取り組んでいただくことで、障がい者の雇用創出・自立支援を実現することを目的としています。皆様のエコキャップ運動への取り組みが、地域の障がい者の自立支援に繋がっています。

東京都江東区
「障害者福祉センター」
のエコステーション



9/28鹿児島県大崎町で
エコステーション開設



資源リサイクル率日本一



資源リサイクル率日本一の大崎町は、エコキャップ推進協会と締結した協働宣言に基づき、ペットボトルキャップ等のリサイクル活動を通じた障がい者支援事業を進めています。

エコキャップ運動でいいこと！

途上国支援・・・ポリオ撲滅の成果 99%撲滅を実現

エコキャップ推進協会は2007年の設立以来、エコキャップの売却益によって、累計で1億2460万円のワクチン・医療支援活動を行ってきました。皆様と一緒に進めてきたペットボトルキャップのリサイクル促進運動は、ポリオという恐ろしい病気との闘いの中で、大きな成果を挙げることができました。

UNICEF（国連児童基金）は2015年8月11日に、アフリカ大陸で1年間に渡ってポリオ発症者が出ていないと発表しました。このまま2年間発症者が出なければ、アフリカ大陸は正式にポリオ撲滅完了宣言となります。

現在、ポリオの常在国は世界中で、パキスタンとアフガニスタンの2か国のみとなりました。しかしこの2か国は紛争の問題があり、十分な予防接種を実施できないという問題を抱えています。



エコキャップ運動でいいこと！ 途上国支援・・・海外の子ども達へ

この度、エコキャップ推進協会よりキャップの売却益の一部を、ブータン王国政府が1998年5月12日にジュネーブのWHO本部の承認を受け正式に発足させた、ブータン・ヘルス信託基金に寄付することにいたしました。ブータン・ヘルス信託基金は、ブータン国民の初期医療のサポートを重んじる大変素晴らしい基金です。

～何故寄付先がブータン王国なのか？～
先の東日本大震災の義援金の額がその国のGDPに占める比率を換算した時に、ブータン王国は最も高い寄付を他の諸外国に先立ち最も早く行なっていたいただきました。義援金の多寡にこだわるわけではありませんが、親日国であることの高さをうかがい知ることができます。私どもの寄付額も決して多いわけではないのかもしれませんが、キャップの売却益で社会貢献をしたいという思いと重なり、ブータン王国への寄付を決定いたしました。

